

終章 グローバル化と「国際政府無き国際公共財供給」

- ・ 公共財は、国際政府の無い国際経済関係においても必要とされる。伝統的なものに、①平和、②安定した国際通貨制度、③自由通商体制があるが、現代では、④地球環境と資源の保護、⑤マクロ経済政策協調などが求められている。
- ・ 国際公共財供給は、その「意志」と「能力」を有する国によって供給されてきた。19世紀のイギリス、第2次大戦後から60年代末までのアメリカなどはその典型である。だが、現代では集団的に供給される必要性が生じてきた。G7や国際機構などはそうした役割を担っている。
- ・ ただし、国際公共財の協調による供給は簡単ではない。①各国の効用関数（何が一番重要な政策課題か）が違い、②内政との関係で供給能力がある諸国間で「囚人のジレンマ」が生じやすく、③供給国が多くなると協調が困難となり、④しかも最近では「協調」よりも「勢力均衡」に重きをおく国家が台頭してきている。
- ・ グローバル化の進展は、国際公共財供給の意義を重くしてきたと言える。果たして安定的に国際公共財供給が可能か否か、これが現代の経済政策の重要な課題となっている。